

さらば 詩人てっちゃん

ハンセン病患者の写真展

韓国人写真家・権徹さん

(46)が、ハンセン病元患者で2011年に87歳で亡くなった詩人・桜井哲夫さん(後半生を追った写真集「てっちゃん ハンセン病に感謝した詩人」(彩流社)を出版した。2日から東京・池袋で写真展がある。



桜井哲夫さんを背負う権徹さん＝2002年5月、韓国・釜山、金正美さん撮影

韓国人権徹さんが撮影

井さんと出会った。

青森県出身の桜井さんは17歳で国立療養所栗生楽泉園(群馬県草津町)に隔離された。重い後遺症で両目の光を失った。隔離政策のため墮胎させられた妻は26歳で亡くなった。

59歳で詩作を始める。指をすべて失い、ペンを持てないため頭の中で言葉を練り、口述で書き取ってもらい、詩集を発表してきた。

「この病気に感謝している。みなさんと会えたから」と朗らかに語る優しい人柄は「てっちゃん」と親しまれた。

妻が育った朝鮮半島へ行くきたいと願い、02年、家族のような付き合いをしてきた在日朝鮮人の金正美さん

(37)とともに韓国・釜山へ。権さんも案内役として同行。権さんが桜井さんを背負う姿を金さんが撮影した写真は、写真集の表紙となった。

桜井さんは金さんの支援で97年、青森に里帰りを果たした。逝去後の12年には本名の「長峰利造」として、両親が眠る実家の墓に納骨された。

権さんはこの秋に青森の桜井さんの墓や実家を訪ねた。実家に両親の遺影とともに掲げられた桜井さんの遺影が、詩人の生涯を締めくくる1枚として、写真集の巻末に置かれている。

写真展は8日まで、豊島区南池袋3丁目の「床屋ギヤラリー」で。(北野隆一)